

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
自然科学概論A	サイエンスとはどんなものか	佐藤 信太郎	1年次前期
講義の目的	現代は科学の時代だ。一方、日本の若者の科学技術についての関心は低下してきているという。そうした状況の中で、神秘主義に惑わされたりする人もいるようだ。科学により巨大な産業が成立して生活に直接影響を与えている。便利もあれば災いもある。できるだけ多くの人が社会に重大な影響を持つ自然科学について判断するための知識を持つ必要がある。そのためにサイエンスを内(科学的知識)と外(社会的側面)から学ぶ。		
到達目標	自然科学に関する知識が社会人として必要なことを理解する。そして、社会的判断をするのに役立つ基礎的な自然科学の知識を習得する。		
講義内容	[A] 量(科学では量が重要)、[B] 相互作用(科学は自然に何があり、どう関係するか調べた)、[C] 自然史(相互作用で自然は変化して、人間が生まれた)、[D] 科学史(人間は科学を発展させた)、[E] ニセモノ(科学に価値があるからニセモノが生まれる)、[F] 科学論(本物を見分ける)、[G] 社会的側面(科学者とはどんな存在か)。前期と後期で全体は7分野で構成される。前期の講義は[A][B][C][F][G]の分野から選んだ。		
講義スケジュール	第1講	科学について	
	第2講	専門家の見解について1(慎重さ、少数派、利害、天才、比較、権威) [G]	
	第3講	専門家の見解について2(科学的証明、予防措置原則、統計) [G]	
	第4講	行動生態学(オスとメス) [B]	
	第5講	行動生態学(性決定と性比) [B]	
	第6講	行動生態学(性選択1・オスの争い) [B]	
	第7講	行動生態学(性選択2・メスによる選択) / (性の対立) [B]	
	第8講	科学的判定法 [F]	
	第9講	科学論 [F]	
	第10講	研究プロセス / 発想法 [F]	
	第11講	量の種類(1) 次元 [A]	
	第12講	量の種類(2) 数式化 [A]	
	第13講	量の定義 [A]	
	第14講	量の測定 [A]	
	第15講	霊長類の生態と進化 [B、C]	
方法指導	テキストは使わないのでノートをとる必要がある。配布するプリントに書き込む場合もある。毎回、重要点を復習をする。質問歓迎。		
授業外学習	新聞、雑誌、放送などで科学に関連する出来事に関心をもつことは事前学習として有用。事後学習として授業で紹介した文献などを調べることは好ましい。		
成績評価方法	本試験(筆記試験、ノート持ち込み可能) 100%で成績評価する。		
ステキ	なし		
書籍参考	『DNAで語る日本人起源論』篠田謙一(岩波現代全書)		
事項記	初心者でも理解できる内容。		